

## 2-34-6 仁和寺 名勝 おむろざくら 御室桜

御室桜は、遅咲きの桜として知られているが、その数約 200 本で、江戸初期にはすでに現在の場所に植えられていたようである。また江戸時代中期には観桜の名所としても知られており、丈が低く根元から枝を張る御室桜と、その満開の花を愛でる人々の風景が『都名所図会』にも紹介されている。

大正 13 年（1924）、国の名勝に指定された。

※都名所図会=安永 9 年（1780）、秋里籬島、竹原春朝齋により刊行された本。多数の挿絵が庶民の心を捉え人気となる。

仁和寺の説明板より